

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2799200056		
法人名	生活協同組合 ヘルスコープおおさか		
事業所名	グループホーム放出ゆおびか		
所在地	大阪府大阪市鶴見区放出東1丁目28-21		
自己評価作成日	平成28年11月28日	評価結果市町村受理日	平成31年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年12月6日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1Fは7名様という事で、スタッフのケアが行き届きやすい状況である為、入居者様のADLとしても、グループホームでの生活が継続出来やすい。  
また、密接した環境である事から、入居者様同士 入居者様とスタッフの関係が築きやすい。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所して8年近く、諸事情で管理者交替が続いているが、ゆったり・穏やかにを表す古語「なごみ」としてに相応しいケアを目指して日々努力している。  
利用者の重度化によるADL低下や人員配置の状況もあるが、本人主体の個別ケアを基本とする楽しさを探し、知恵と工夫で出来ないことを無くしていきたいと、新管理者以下職員がある。そのためにも、職員間の対話力のアップ、仕事に活かされる気付きの出し方と受けとスキルアップでケアの資質を高める必要があると意欲的である。職員は、アクティビティし、外出の機会をつくりだして利用者の笑顔を増やしたいと目標を掲げている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく職場目標を掲げ、各職員が何をすれば職場目標を達成できるのかを各自の役割で明確にし個人目標を作成し毎月進捗管理して具体化する取り組みをしています。 新人教育の際にも思念の教育を行っています。	楽しい過ごし方を見つけ、日々出来ることが楽しい、「生活を楽しみと感じて頂く」を理念とし、記憶はなくても思い出は残る利用者一人ひとりの個性を重んじ、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の祭り、イベントには参加しています。 運営推進委員会に地域の班長に参加して頂いています。	町会に加入し回覧板は配布されているので、地域行事(盆踊り・公民館での中学生の音楽会等)には参加している。玄関前のベンチで利用者3人が週に1回、児童の帰校時に手作り団扇で「お帰り」の挨拶をしており、児童の笑顔も見られるようになっている。ふれあい喫茶への参加数も増やしたい(5月に1回参加)としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は組合員さん向けに認知症学習会を開催しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2016年7月より 継続開催を開始しました。 2018年8月に管理者交代した為、交代後はまだ出来ていません	管理者の頻繁な交代があり、規定どりの開催が見えないが、既存の会議では、家族2名・包括センター1名、地域組合員2名の参加を得て、報告の他意見交換も双方に行われている。	設立して8年弱、地域事情もあるが地域からの参加者を組合員以外に拡充すること、議事録に参加者明細を記載すること、議事録の家族への配布をすること、継続開催することに向けての努力することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組めておらず。	生活保護受給者が6人居る関係で、福祉担当部署とは頻りに連絡し連携している。介護保険担当窓口とは通常の事務的連絡・報告等の繋がり以外は、特別な関係性は確認できない。	行政機関とは、管理者交替を機に今少し積極的な関係を築くよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には施錠を行わず取り組めていますが、正面玄関は防犯の為、施錠を行っています。	身体拘束については研修会の継続実施で理解を深め、拘束をしないケアに取り組んでいる。本年度新設の適正化については既に取り組みがある。2階からの階段出入り口と門扉は危険防止のため施錠されているが、EVは自由に昇降できる。「帰りたい」には根気よく、適宜に対応して落ち着きが見えてきたとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間教育の中で虐待に関しての内容を設け実施します。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的には取り組めていませんが年間教育の中で虐待に関しての内容を設け実施します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ISO9001のグループホーム入居者受付契約手順書に則り説明と承認を得る取り組みをしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があれば苦情受付書を作成するなどして、会議にて全スタッフで確認し、早期解決・運営に反映しています。	管理者は家族の来所時に報告をすると共に、意見や要望を聴くよう努めている。職員は家族の声を管理者に報告している。全職員で共有して改善を図ると共に、本部・ホームの運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの中には労組組合に加入し労働条件・労働環境の提案が出来る。また、フロア会議でも意見、提案をし皆で話し合いながら改善するように取り組んでいます。	月1回のフロア会議や個人的面談等で意見・提案を聴取し、事案によって本部へ上申している。またはホーム内で解決している。生理休暇の取得、休憩時間のとり方など、改善された事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1度個人面談を行い、半年間の振り返りを行っている。その中で左記のように向上心を持てるような環境・整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年1回 力量チェックを行っている。それに伴い教育訓練計画を立て、内部・外部研修に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	具体的には取り組めていません。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ISO9001のグループホーム利用に関する要求事項明確化手順書に則り、ご本人様の要望を聞き取る形が出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ISO9001のグループホーム利用に関する要求事項計画化手順書に則り、ご本人様だけでなくご家族様のご要望も聞き取れるようしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ISO9001のグループホーム利用に関する要求事項明確化手順書に則り、要求事項に応えられる能力を当グループホームが有しているかの確認を行い、他グループホームへの連絡調整を行う事も有ります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様が何がどこまで出来るのか？をアセスメントをし、日々の暮らしの中でお任せ出来る事、一緒にする事など、暮らしの関係性を築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1か月に一度、お手紙で様子を知らせる事や、ご訪問の際に近況報告しながらケアのアドバイスを頂けるように声かけをして、ケアの方法を考えていく取り組みをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟や親せきの方が来訪されたりと、入居されても関係は途切れず継続しています。また、実家に帰られたりされています。	入居歴の差によって家族等の訪問には差があるなかで、本人が逝去された後もイベントの度に手伝う息女、訪問マッサージ師、ボランティアなど、ホームで培われる馴染みが良好な関係で継続するよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の記録や、アセスメント⇒カンファレンスを通して、利用者様同士の関わり方をどのように構築していくかを検討しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象者いませんでした。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートの活用や、必要に応じて、家人様への聞き取り等を通して、ご本人様が何を望まれているかをカンファレンスで検討しています。	利用者の気質を理解し、日常会話にキーワードを見つけ、声かけの工夫をして状態・反応の変化を見逃さないようにしている。記憶の底に在る何かを引き出して希望や意向に繋ぐよう努力したいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートの活用や、必要に応じて、利用前サービスや家人様への聞き取り等を通して、ご本人様の生活歴やサービス経過などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を個人記録にまとめ、それを使用した申し送りやアセスメントにより、入居者様の心身状態の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員で情報収集からカンファレンスを行い、家族様への説明・承認を得ています。	ケアマネは、月毎のモニタリングをし、担当者他職員とカンファレンスをしている。6ヶ月毎にサービス担当者会議を開き、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記載は勿論の事、重要な案件に関しては申し送り表に記載し、職員間の情報共有を図っている。その中から計画の見直しへの情報抽出を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様に必要であろうサービスが出てきた場合、家人様と連携し診療所だけでなくその他の医療機関・サービスを提供出来るようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会等により地域資源の情報は得ていますが、計画的には取り組めていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と常に連絡を取りながら、月2回往診があり、書面による連携を図っています。	従来のかかりつけ医2名の他は生協の診療所をかかりつけ医とし、月2回受診している。必要に応じて往診を受けている。訪問看護師との連携もよく、健康管理にも不安はないとしている。他の診療については家族協力を基本とするが、必要に応じて職員が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回 毎週火曜日に 看護師がゆおびかへ来訪し、入居者様の近況や気になる症状などに対するアドバイスを頂いている。また、入居者様の状況によっては都度、連絡をし情報提供に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際に定期的に病院へ訪問し本人様との関わりを切らさないようにしています。病院関係者と家人様との情報共有をする事で退院時の受入がスムーズに行くように支援をに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にISO9001重度化に係る指針にて、入所当初に簡単なアセスメントは行い、以降、サービスの中で、状態変化等の可能性が見られる前にご家族様への聞き取り・ご説明・了承を得られるようにしています。	重度化・看取り対応については指針・同意書を有し、必要時にも適切な対応がある。これまでの救急搬送の経験から、医・看護師の協力を得て、急変時と終末期の対応について具体的な希望を聞き取る書面を用意している。昨年度2名、本年度1名の看取りがあり、次に備えての反省会も都度行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルは作成していますが、緊急時の対応は検討されていません。応急手当の訓練は実施されていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を開催	昨年度は規定の訓練を実施、本年度は1回のみとなっているが年度中に夜間想定で行うとしている。今夏の台風や豪雨の経験から、あらたに対策を整える必要があると認識している。また、備蓄については保管場所が無く本部任せとしている。地域との協力体制作りも今後の課題としている。	当ホームの構造的・人的条件を考慮した、火災や種々の災害への避難や備蓄等の対応策を全職員で検討し、複数回の訓練の実施を望むと共に、地域との協力体性の構築にも期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1年に1度『アルツハイマー病患者の権利』をもとに作成したチェックリストを行い、職員の気づきを意識しています。	高齢者の尊厳と人権について管理者(前任)による伝達学習など、認知症はその人の個性として尊重する接遇に努めている。長期の入居歴や職歴に相応した声かけもあるが、節度を越えた時点での注意も怠らないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュにケーションを取る際に、ご本人様の気持ちを聞けるように、自己決定出来る様に問いかける声かけを基本としています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記の様に自己決定出来る用に声掛けし、希望に添う様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族・関係者から、ご本人様の好みを聞く事や、暮らしから予想される事を日頃のケアに活かす支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関してはレトルトの食材となっています。盛り付けや片付けを手伝って頂いています。イベントの際には手作りの物にするなど、調整しています。	配食業者からのレトルトを利用し、炊飯はホームで行っている。残食具合での意見、季節的なものへの注文は配達時に伝達している。ムース食を別途購入し、食べることを重視して、体力を回復している重度者も居る。盛り付け・下膳など出来ることを気分に合わせて一緒に行う入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合う食事量や栄養、水分量を日々記録し把握することで身体の状態を保ち、入居者様の状況に合う支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促しています。口腔内の清潔は自身で出来る方にはその脳梁に応じ支援しています。必要であれば歯科往診を依頼し、口腔内の清潔を保つようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録や業務日誌の記入、申し送りなどにより、一人一人のパターンを理解する様にし、トイレでの排泄を支援しています。	個々人のパターンや仕草・体調に沿って、声かけに留意してのトイレ誘導で自立を促すと共に、介助時に皮膚の変化や出血等に注意している。パットやオムツの使用量にも気配りしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方にあつた運動の促しを行っています。また水分は1日1000mlを目安として接種して頂くように声かけを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	声かけの工夫や時間、タイミング等。また拒否の強い時は職員を交代する等、ご本人様の気持ちを重視して入浴して頂く様に对应しています。	週2回を基本に、主に午前中に入浴しているが、重度の人は午後2人介助で行っている。お湯はその都度入れ替え、香りのある入浴剤を使い、季節の柚子湯も楽しんでいる。症状や希望に対処しつつ、清潔保持も主眼にして対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や体調、年齢の状態に応じて休息を取って頂いたり、夜間は室温、湿度、明るさ、音などの環境を整える事で快適に睡眠を取って頂けるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様毎に服用している薬の効果・副作用などファイリングしており、いつでも閲覧出来るようにしております。 個人記録にて服用の症状を確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家人様・知り合い・関係者より、情報共有を図り、役割や楽しみについて理解し支援できるようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の外出希望があれば、可能な限り外出出来るように努めます。遠い場所は予め計画し、外出する様にしています。	天候・症状に合わせ、職員配置に工夫して周辺散歩を心掛けたいとしている。近所の花見や初詣などはユニット毎に全員車椅子で行っている。昨年は系列のグループホームと共同で家族の協力を得て、海遊館に出かけている。人員不足で十分に外出支援が出来ていないが、知恵と工夫で支援に努めたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、お金を所持して頂き、自由に使用出来るようにしています。また、自己での管理の難しい方は、事業所で管理して外出時の買い物等はそこから出すようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話を自由に使用して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように、壁紙などを作成しています。	多目的だった1階部分を改造した施設で、少々手狭なりびんぐだが工夫した季節感のある飾り付で生活感がある。職員手作りの表札で廊下の雰囲気明るくするなど、安全で穏やかな暮らしが保たれるよう努力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の狭さにより、一人になる事はなかなか困難であります。 お部屋で一人になりたい場合はその気持ちを優先す様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅の家具を持ち込んで頂いたり、入居者様の自宅に近い雰囲気を作れるように、本人様・家人様と一緒に作る工夫をしています。	好みの照明器具やカーテンで雰囲気を換えたり、使い慣れた家具や仏壇などが安全性を考慮して配置されている。飾られた写真や趣味の作品が今までの暮らしぶりを偲ばせ、居室の夫々が居心地よく整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カンファレンス。ケース検討会議等で、入居者様毎にどこまで出来るのか？わかるのか？をスタッフが理解し、必要な支援を行い、自立した生活を継続して頂けるようにしています。		